令和８年度　江別市立野幌中学校　学校だより　　令和８年　１０月１３日発行　第　８　号
文責　上田 充士

こぶし

〒069-0832 江別市西野幌92番地の3　☎ 011-384-3339　Fax 011-382-2486

HPのQRコードです

令和８年度　全国学力・学習状況調査 の結果と分析

４月23日（木）に、全国の中学３年生を対象に実施しました『全国学力・学習状況調査』の結果について、全校生徒、全保護者の皆様に概要をお知らせします。
学校では、採点結果やアンケート集計を基に、課題を分析し、授業や教育活動の改善に努めています。ご家庭におきましても、参考にしていただければと思います。（なお、個人の結果についてはすでに資料としてご家庭に配付しています）

1　各教科の結果

【国語】【数学】 全国平均の正答率と比較して **『上回っている』**

【英語】 全国平均の正答率と比較して **『やや下回っている』**

2　各教科、領域別の結果

【国語】

15問中平均正答数は9.8問でした（全国平均は9.6問）。領域別【話すこと･聞くこと】、【書くこと】、【読むこと】の全てで平均正答率が全国を上回っています。
正答率が低かった問題は、①「文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる」（本校正答率38.5%）②「語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる」（本校正答率34.2%）③「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる」（本校正答率35.0%）となっています。無回答率は20%を超えるものはなく、どのような問題に対してもあきらめずに解答している様子がうかがえます。結果を踏まえ、授業の中で根拠や理由、言葉の効果を順序だてて文章や自分の言葉で表現したり、相手の意見を聞き取り、互いの考えを尊重しながら、自分の意見を整理して伝える場面を多くすることを取り入れたりしています。

【数学】

16問中平均正答数は9.5問でした（全国平均は9.1問）。領域別【図形】【関数】【データの活用】の平均正答率が全国と比べて上回っていますが、【数と式】は下回っています。
正答率が低かった問題は、①「総合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」（本校正答率38.5%・無回答率31.6%）②「数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」（本校正答率33.3%・無解答率42.7%）③「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる」（本校正答率34.2%・無解答率31.6%)でした。思考・判断・表現の力を使い、記述式で解答する問題に課題が見られます。結果を踏まえ、解決手順を言葉や式を用いて説明する活動の日常化や「なんとなく分かっている」状態から一歩進めて筋道を立てて説明・証明する思考の育成に力を入れています。

【英語】

９問中平均正答数は4.0問でした（全国平均は4.5問）。領域別【聞くこと】【読むこと・書くこと】の平均正答率はが全国と比べて上回っていますが、【話すこと】は下回っています。

英語全体の問題の難易度や受検者の解答状況を統計的に分析したものをIRTスコアと言いますが、本校のIRTスコアは全国平均IRTは全国よりやや下回っています。

正答率が低かった問題は、①「音声や語彙、表現、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を技能を身に付けているかどうかをみる」（本校平均正答率17.2%）②「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる」（本校平均正答率18.9%）③「社会的な話題に関して聞いたことについて、考えた理由とその理由を話すことができるかどうかをみる」（本校平均正答率12.8%）でした。結果を踏まえ、毎時間、間違えても良い授業の雰囲気づくりを大切にして既習事項を活用して英語で自分の考えや理由を発表する機会を増やすなどしています。

3　生徒質問紙の結果

「学習意欲や生活習慣、生活状況、学習環境に対して調査すること」をねらいに実施しています。

〇＝全国平均を上回った質問項目

〇友達関係に満足している。
〇将来の夢や目標を持っていますか。
〇分からないことや詳しく知りたいことがあった時に自分で学び方を工夫できる。
〇PCやタブレットなどのICT機器で文章を作成することができる。
〇授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる。
〇あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている。
〇道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学習やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

▲＝全国平均を下回った質問項目

▲毎日、同じぐらいの時刻に寝ている。

▲学校での悩みについて親や家族と話をする。

▲先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。

▲困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。

▲学校に行くのは楽しいと思う。





4　今後に向けて

本校では今年度も研究主題を『生徒の意欲を高めるわかる授業づくりを目指して～主体的に考え、自己表現ができる生徒の育成～』と設定し、日々の授業に取り組んでおります。

４月に行った『ＮＲＴ（標準学力検査）』の結果では、１・２年生が偏差値平均前後、３年生が偏差値平均以上となっています。全国平均偏差値を下回っている教科は１年生で「国語・社会・数学」２年生で「数学・英語」となっており、より一層、生徒が興味・関心を持ち、確実に学習した内容を見につけるような授業改善を心がけていきます。

また、全国学力･学習状況調査の生徒質問紙で全国平均を下回っている項目に関しては、学校の課題として捉え、今後も毎月実施している生徒アンケートの結果等を踏まえ、生徒一人一人に寄り添いながら、改善していきたいと考えております。学校では引き続き、対話を重視した主体的な学びに力を入れ、思考力・判断力・表現力の向上に努めていきます。そのためにＩＣＴを効果的に学習に取り入れ、個別最適で協働的な学びの充実に向けて教育活動を展開して行きます。